

市民からのお便り 孫とクイズを楽しんでいます。

親子クイズ 497

Q これらの略語の意味は何でしょうか？
下の言葉から選んで（ ）に記入してください。

- ① GDP ()
- ② WHO ()
- ③ IOC ()
- ④ EU ()
- ⑤ TPP ()

- A. 欧州連合 B. 世界保健機関
- C. 国内総生産 D. 国際オリンピック委員会
- E. 環太平洋戦略的経済連携協定

【第496回解答】

第(二)九番札所(国)分寺と
第(三)二番札所(禅)師峰寺
です。

【第496回当選者】

森 裕介 (岡豊町)
小松 美智 (比江)
筒井 良枝 (大桶甲)
島内 良章 (物部)
坂本 未妃 (十市)

★応募総数／54通 ★正解率／91%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に
考えています。

■応募締切／10月11日(金)必着
■あて先／〒783-8501
南国市大桶甲2301
南国市企画課「親子クイズ」係
*はがきで応募
■賞品／正解者の中から抽選で、5名に
図書カード(1,000円)を贈呈

「子どもと共に」 34 人権学習シリーズ

我が家には、小学3年生の娘と5歳と3歳の息子がいます。仕事と育児の両立で毎日必死です。ある日、娘から携帯に電話がかかってきました。「どうしても買いたい人形があるけど、買ってもかまん？」娘にとって、お店で見る物は何でも輝いて見えるようで、その日も私の両親との買い物で欲しい物を見つけたとのこと。最近子どもたちが物を大切にしないので、しばらく買うことを控えようと夫と話をしていた矢先のことでした。「だめ」と言ってもすぐには納得しないだろうと思い、「帰ったら話を聞くから、その後買うかどうか決めよう」と答え、電話を切りました。

何かのきっかけで職場の先輩たちとその話をする機会があり、先輩たちはその話に耳を傾けてくれました。そして「物を大切にしてくれよう。最近、物を失くしても平気という子どもも多いしね」と共感してくれた後、「お嬢さんにはお小遣いをいくらあげてる？」ときかれ、ハッとしました。「1カ月に100円です。でも、買いたい物があれば一緒に買いに行くし・・」

娘は初めての子どもということ

「子どもと共に」

もあり、気をつけてはいましたが、ついお小遣いのことまで気が回らなかった。「必要がある無し」ではなく、貰ったお小遣いをどう使うかを考えさせることも大切かもね」とのアドバイスをもらい、娘の成長についていけない自分分が気付かされました。

こんな出来事は日常茶飯事で、子育てには悩みが尽きません。幸い私の場合は、子育ての先輩たちが周囲に多く、生のアドバイスを貰うことができます。しかし、世の中には核家族化に伴い気軽に相談できる相手もなく、一人で思い悩みながら子育てをしている人もいます。私もその一人です。そんな時は、私のように思い切って誰かに相談してみるのが一つの方法ではないでしょうか。そうすると、親として気づかされることもたくさん出てきます。子どもが成長すると共に、自分も親として成長させてもらっているのだな、と痛感します。さて、次はどんな難題が出てくるか、子どもたちが私たちのもとから巣立っていく時まで、親として共に成長していきたいものです。

※お問い合わせは
人権啓発広報委員会
(880・6569)まで

世界に向けて



みぞぶち だい き
溝渕 大記さん (大桶乙)

にこにこライフ

159



Uターンの先駆け



まつおか とおる
松岡 徹さん (稲生)

県外で就職していましたが、4年ほど前に高知に帰ってきて、父の製材会社で働いています。自分が売った木で家を建てた方から、この木を使って良かったと言ってもらえたときは、うれしいですね。

この仕事は、大工さんからの注文を待つという営業スタイルが主ですが、もっと、こちらから動かないといけないなと思っています。これから、一般家庭向けの商品も売り込んでいきたいです。将来は、フェイスクックなどを活用して、高知県産の木の魅力を世界に向けて発信していきたいです。

「自分の中で一度考えてから行動するように心がけています」と溝渕さん。とても落ち着いた対応が印象的でした。

現在、稲生果樹研究会の会長をされている松岡さん。農業関係の書籍や新聞の切り抜きの多さにびっくりしました。

大学卒業後、東京、大阪、名古屋と都会で働いていました。休みのたびに帰っていたので、地理は地元の方よりも詳しくなりました。32歳のときに高知で仕事をしたくて、妻と子どもを連れて帰ってきました。Uターンの先駆けですね。今はもう退職して150本の桃を育てています。

山登りが好きで、若いころに富士山に登りました。頂上の郵便局から出した暑中見舞いは喜ばれましたね。北アルプスを縦走したこともあります。四国、東赤石山が印象に残っています。

なんこく歴史散歩 第12回

前回に引き続き、国分寺の文化財を紹介します。

厨子・須弥壇

金堂内にあり、本尊を収めている上部分を厨子といい、その厨子が乗せられている下の部分を須弥壇といいます。室町時代末期から桃山時代の特徴を持っており、時代的、形式的に貴重なことから県指定の文化財になっています。



厨子・須弥壇

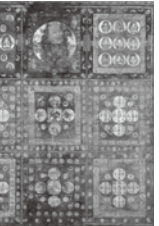
絹本着色両界曼陀羅

曼陀羅は、仏の悟りの境地、世界観を視覚的に表したもので、蔵界と、金剛界とがあります。この両界曼陀羅は、それぞれ、縦約153cm、横約138cmの大きさの絹布に、細部まで細かく描かれています。広永22(1415)年、以来、国分寺に保管され、



絹本着色両界曼陀羅 (胎蔵界曼陀羅)

一歴史を物語るものたち「土佐国分寺の文化財2」



絹本着色両界曼陀羅 (金剛界曼陀羅)

板絵両界光明真言曼荼羅

市指定の文化財で、胎蔵界、金剛界の曼荼羅が、それぞれ、直径2mを超える円形の杉板に描かれています。胎蔵界の裏面には、江戸時代初期に修理されたことが、墨書で記されています。



板絵両界光明真言曼荼羅 (胎蔵界曼荼羅)



板絵両界光明真言曼荼羅 (金剛界曼荼羅)

他にも、国分寺には文化財が数多く保管されています。建造物では、金堂が国の重要文化財に指定されており、現在、屋根のふき替え修理が行われています。これらの文化財は、次世代へ伝えるべく、大切に守られています。

※お問い合わせは
生涯学習課文化財係
(880・6569)まで